

会議録（概要）

会議の名称	平成 30 年度 第 2 回佐渡市博物館協議会
開催日時	平成 31 年 3 月 27 日（木） 13 時 30 分開会 15 時 30 分閉会
場所	佐渡市教育委員会 2 階会議室
議題	1 開会 2 あいさつ 3 議事 4 閉会
会議の公開・非公開 （非公開とした場合は、その理由）	公開
出席者	佐渡博物館協議会 委 員 会 長 臼杵 國男（社会教育関係者） 副会長 池田 雄彦（学識経験者） 委 員 小見 秀男（学識経験者） 委 員 加藤 恭子（学識経験者） 委 員 石川 喜美子（学識経験者） 委 員 萩野 正作（学識経験者） 委 員 伊藤 正一（学識経験者） 事務局（社会教育課） 教育長 渡邊 尚人 課 長 渡辺 竜五 佐渡学センター長 岡部 欽也 係 長 本間 克彦 主 事 五十嵐 麻湖 指導員 高藤 一郎平
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	0 人
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	発言者
岡部所長	1 開会
臼杵会長	2 あいさつ 議事に移ります。（１）佐渡市立博物館の整備方針（案）について協議します。
岡部所長	「佐渡市立博物館整備方針(案)」をご覧ください。 佐渡市の誕生から 15 年経ちますが、現在、佐渡学センターでは、博物館、資料館、収蔵施設など 17 の施設を所管している状態です。今まで整備方針が出なかったのですが、施設のうち、特に博物館を整備する方針を作るため、有識者を集めて会議を開き、それを基にした事務局案としてお計りするものです。 佐渡博物館、両津郷土博物館、小木民俗博物館、相川郷土博物館、佐渡植物園の 5 つは登録博物館です。博物館法によると、登録博物館には、年間 150 日以上開館する、常駐の職員がいるという条件がありますが、現在それらをクリアしているのは佐渡博物館だけです。本方針は、適法な形ではない現状を考えて、今後どうするのかという方針になります。 簡単に言うと、佐渡博物館は、展示方法等については今後改善しながら、運営体制は現行のまま。両津郷土博物館、小木民俗博物館、相川郷土博物館、佐渡植物園については、登録を外したいという事です。そして、これらは佐渡博物館の分館として、両津郷土博物館（佐渡博物館分館）、小木民俗博物館（佐渡博物館分館）等とします。 相川郷土博物館については、建物が史跡であること、近くに奉行所やきりうむ、ゴールデン佐渡など、（時代は近代や江戸時代などを変えますが）類似した施設があっても、来館者が期待できないのではないかという事で、急ぎ展示内容等を替えることはありませんが、奉行所と同じように「史跡」御料局佐渡支庁跡として活用していきたいと考えています。佐渡植物園についても登録を外し、今後は、すぐには出来ないと思いますが、一般公園や普通公園、児童公園などのような形で活用できないかと考えております。 さらに、相川の郷土博物館については、佐渡金銀山を世界遺産にという事で、世界遺産推進課と協議して所管替え等の必要があるかなと考えています。 資料館等については、当分は現状のままで考えています。 収蔵施設については、旧北中学校、川茂保育園など各地に散らばっていますが、旧後山小学校の体育館を収蔵施設として活用する計画を（予算は）計上していますので、資料の中に一つ加わる見込みです。旧後山小が決まった暁には、15 番の東大通会館を廃止し、他の保管施設についても、出来るだけ中央に集めたいため廃止等の検討もしています。
渡辺課長	補足です。新潟日報に載った（相川郷土博物館の）話は本件ではありません。そちらは、相川の街歩きの中で博物館機能を検討するという事で、相川郷土博物館をなくす

	という事ではありません。また、両津郷土博物館を佐渡学の拠点にしたいという案を、当初議論していた所の方針です。今日説明しているのは短期的な方針であって、長期的な方針がこれでいいという事ではありませんし、この方針については昨年度も協議会にかけて話をしていることですので、決して目新しいものではないと思っています。 ただ、先程岡部から申し上げた通り、博物館法に基づく博物館の取扱いの問題、基本的な問題も含めて、対応しなくてはいけないと考え、最短の計画を出したということです。 実は、全体の計画を作りたいのにできなかった一番大きな理由は、予算なんです。例えば、両津郷土博物館を拠点にしたいとなった時、耐震の調査だけでも 2000 万くらいかかってしまいます。そして、調査をしてアウトだと、その 2000 万を捨てることになります。その 2000 万を予算に盛りたかったんですが、厳しいという状況になりましたので、そうすると両津郷土博物館は、来館者を入れられないんです。耐震もしていないところに人は寄せられません。その調査もできなければ、耐震化に係る経費も見積もれないという事になります。そこで、この全体的な計画が、もう少し大きなものを作って行きたいとして今年考えたんですが、これがとん挫しました。 その中で色々議論したのが、まず小木博にしても修繕が要ります。その中で、博物館に並んでいる物を整理しなくてはいけない。それにはまずは収蔵庫がいるだろうという事で、短期的に収蔵庫の予算を認めていただきました。旧後山体育館を収蔵庫に活用しながら、佐渡の博物館機能は非常に弱いと指摘されていますので、その機能についてどのように考えていくかというところまで本年はできませんでしたが、来年度収蔵計画と合わせて、現実的な予算関係と合わせて、考えていくしかないという結論の中でこのような形で提案をさせて頂いたところです。もう少し進んだものも考えましたが、残念ながらできませんでした。そのことだけお詫びします。以上です。
臼杵会長	色々説明がありましたが、質問ご意見ありましたらお願いします。
小見委員	「分館」の趣旨がよく分かりません。新潟港近くの朱鷺メッセに万代島美術館というのがあります。あれは、長岡の近代美術館の分館なんです。分館長もいますが、本部である長岡の館長が全部仕切っています。この報告書も読ませてもらって来ましたが、分館でいいのではないのですか？佐渡博物館分館ではだめなんですか？
岡部所長	分館の後の施設名はなくてもいいのではないかと、ということですか？
小見委員	施設名は付けていただいても構いませんが、佐渡博物館が本館で、各施設が分館という考え方は出来ないですか？ 文化行政課の登録博物館の担当者に聞かないといけないのかもしれませんが、佐渡博物館は 150 日開館し、学芸員も資料もありますよね？登録要件は全部充たしていると思うので、(各施設を)自然史の分館、民俗の分館、という形で残すことはできないのでしょうか？登録を外します、という意味は分かるのですが。

渡辺課長	(小見委員のとおり) 短期的には分館にしたいという事です。両津については、佐渡博の両津分館にすると、先程のとおり人の配置の問題や 150 日要件が外れていきます。現状基本的には人がいませんので、分館扱いできない。今後、佐渡博の分館にした後、登録を外して分館にするという意味です。
小見委員	両津博について、耐震が大変だという話でしたが、あそこには国の民俗文化財が収蔵されていますよね？ 実は、学芸員設置というのはペーパーでいいんですよ。常駐している必要はないんです。つまり、佐渡博の学芸員が、両津の博物館の学芸員も兼任できます。耐震化の必要のある建物があって、資料があって、あんな立派な郷土博物館があってあんなにすごい資料をお持ちなのに、活かさない手はないとずっと思っていました。でも先程課長さんが言われた意味では、分館にするとおっしゃっている訳ですから、その方針でお進みになってはいかがかと思います。 本当に、民俗、自然史、総合というか、佐渡博物館を総合博物館とするとみんなが揃うんだから、とてもいい配置なると思っています。ただ、予算なんですよ。
岡部所長	今は、学芸員が常駐していないというのと、分館(という名称)が付いていないので、小木にしろ相川にしろ、各館に直接色々な問い合わせが来ます。各館には臨時職員がいますが、お客さんが来てもレクチャーできないのであれば、佐渡博物館が本館、他施設は分館という事にして、直接そこに問い合わせが行かないように、と考えています。
小見委員	両津の博物館は、私も現役時代さんざんお世話になった博物館で、長岡から収蔵品を持ってきて、巡回展などで何度もお世話になったんです。他の会場は全部無料で、巡回展やってるのに、両津の博物館だけは入館料頂かないと入れられませんかという事になって、それを何とか無料でとか言って何度も交渉した記憶がありますが、2年に一回くらいは来ていた様な気がします。 あの当時から立派な博物館だと思っていました。空港も近かったし、いい所だと思ったんですが、ちょっともったいないですね。
池田副会長	予算の関係でタイムスケジュールが作れないという話もあったのですが、大体いつ頃までこの方針で、何年くらいにはという目度は立っているのでしょうか？ と言いますのは、両津郷土博物館の中には、小木もそうですが、国指定の資料が保管されています。両津に関しては湿度や室温の管理が大変悪くて、換気扇は時々回しているようですが、あれでは対応できないのではないかと思います。そうすると博物館でも資料の保管云々という事が大事な要素なんですが、管理をきちんとしてないと資料そのものがだめになってしまいます。改修は不可能であっても、換気その他の管理くらいはサボるわけにはいけないと思いますが、その辺も含めて簡単なタイムスケジュールを出して頂いて、強く外部に訴える必要があるのではないかと思います。特に保管している資料が、湿度と室温が大変心配な状態です。以前係長と一緒に半年間連続記録をとりましたが、相当湿度が高かったです。

岡部所長	その辺は、先程課長からもあったように、例えば5年スパンとか3年スパンで方針を作ることができれば良かったんですが、そこまで出来ず、方針という資料になりました。いつくらい、という様な事も示せない状態です。
池田副会長	それは仕方ないと思いますが、予算がつかないからと言って管理を放りっぱなしにはできないので、その辺だけは強く市当局に訴えていただきたいと思います。
渡辺課長	それは協議会の中のご意見という事で、財政査定などに持って行きたいと思います。ただ、基本的に、佐渡博物館も狭くて、両津の機能を持ってくるようなスペースもない。改修するにしても、莫大の経費がかかります。 問題は、佐渡博自体もかなり古いんですね。新しく見えますけど、建物は古いという状況の中で、両津郷土博物館を講座や勉強ができ、重要なものを置いて、(センターの)拠点にしたいと思ったんですが、その予算が全くどうにもならないゼロ査定だったということで、非常に我々も困っています。博物館機能が佐渡博物館だけで足りるのか、という事です。相川ではきらりうむが出来、非常に難しい状態になっているので、しっかりとここで「佐渡の博物館をどうするのか」という視点を入れながら、先程おっしゃられたことを議論していきたいと思います。 その上で、必要な物、どう温度管理をしていくのかということは、別の問題として、考える必要があると思います。予算権限は教育委員会には無く、市長部局とのやりあいになりますので、必要な物に関しては市長部局と話していくという事で、今日の提案をまとめてまた話をさせていただきたいと思います。
臼杵会長	予算がつかないというのは、佐渡市全体の予算が、ということですか。
渡辺課長	基本的に、修繕や改修の予算はほとんどつかないです。緊急的に危ないモノ以外は。地区公民館とか、図書館とかも同じです。緊急のもの、危ないもの、市民が利用して危ないものだけは優先的につけますが、施設の雨漏りだとか、そのようなものも全部棚上げになっています。 今は公共施設の個別施設計画を作っていますので、博物館もその棚に入っています。その中で、全体計画を展示に合わせて組んでいく必要がある。それで年間何十億をどこに回すのかということのやり合いになりますので、単純に博物館をつくる云々で予算がとれる状況ではありません。市の全体計画の中で、博物館をこうしていこう、図書館をこうしていこうという議論が必要になってくる。ただ、見本になるような一つのものを考えておかなければならないのが担当課の仕事だと思います。
池田副会長	歴史と文化の島ってことをアピールしてはいるんだけど、どうもそのようなところを行政は大事にしてくれないので。
臼杵会長	そのとおりです。歴史と文化の島と言いながら、そのようなところに力が入っていない。

渡辺課長	そこは協議会のご指摘として受け止め、内部及び市長部局等で議論します。
石川委員	そうすると、名前に「分館」と付くにしても、今まで通りのような運営方法が続くという感じですね？
萩野委員	両津は、あの位置から変えるということを前向きに検討できませんか？あこは 100% 借地ですよね。それでいながら、またお金をかけてというのはどうも納得いかない部分です。それに、両博をどうやって直していくのかという事にお金を掛けるのであれば、佐渡博にしろ、あれだけ狭いエリアですから、やはり、きちんとした大きな博物館が欲しいという要望を上げていかないと、何にも動かないでここで議論しているだけで、前向きには一向に動かない。 池田先生が言うように、「文化薫る島」と言いながら、博物館にこれだけ膨大な資料がありながら、見せられないのは本当に佐渡の損失かと思います。お金はかかりますが、このようなものを売っていかないと。きりりうむでは画像しかないわけですから、実物を見せる場所というのをきちんと作るべきだと思います。ジオパークにしてもみなさん一生懸命やってらっしゃいますが、そんなに立派なものはいりませんが、ある程度の展示エリアはやはり必要ですし、中途半端に終わっているかなど。やはり一つ大きなものができないとなかなか前向きな議論にはならないと思います。
臼杵会長	このままだと、ただ協議して、また先送りになります。結局何もしない。分からない事もないですが、旧 10 か市町村の負の部分ですよ。各市町村が競って、自分の地域にいろんなものがあるという事で、博物館的機能のあるものを作りだしたわけですよ。佐渡市に統合した時にどうするかというのは、結局それがお荷物になってしまっている。どこかで大胆に切り捨てて、中央の博物館をきちんと作ってやっていかないと、全てが中途半端になります。よそのところに観光に行って、どこか博物館に入れば、そのものがきちんと展示されていて、良く分かるような展示の工夫がなされているけれども、佐渡市にそんなところはありません。ただあるものを漠然と並べているだけであって、何にもならないようなんです。それをどこかで誰かがやらないと、結局は進まないんです。
池田副会長	私が佐渡学センターにいた初めの頃は、博物館新構想というのを一応建てて出しましたが、それがどこかで消えて二度とそのような言葉は聞かなくなったんです。やはりきちんとしたものを作れば、このような課題を全部、小木や両津にある国指定のものも一カ所に集めたら、もっと価値も出てきますし、そのような長期構想も案として一応上げてもらえませんか？ここの強い要望として。
渡辺課長	是非上げさせて下さい。逆に、これは我々が言うより、委員の皆さま方のご意見として上げた方が非常にいいですし、今のご指摘の問題はおっしゃる通りです。図書館や博物館に関して、中央としての博物館機能は必要だと思います。そこに、先程副会長からあったとおり、重要な物は温度管理ができるようにする。両津に温度管理を入れるとな

	ると、それだけで数千万となりますので、簡単にはいきません。資料を集約しながら、基本的なものはそこ一カ所行けば分かるという。 また、世界遺産につきましても、各地のガイドンスセンターみたいなものへ行ったりしますが、きらりうむみたいなものはないです。(各地のセンターは)やはり現物が置いてあって、歴史がしっかり分かって、博物館を改装したようなケースが多いですね。基本的に、各地の文化遺産も、博物館の様な形で作り込んでいます。歩きながら歴史が見れて、実物が見れて、トータルイメージが分かる形ですので、正直きらりうむの様なケースはあまり見たことがありません。 そのような面で考えると、佐渡中央博物館は、文化遺産の問題もきちんと、3遺産ありますので、佐渡のトータルが見れるようにしていけないといけないという事はご指摘の通りであります。先程申し上げた「佐渡博物館が狭い」という点は、実はそういう点についてでもあります。 まずは、今の佐渡博物館を中心に置きますが、今後の博物館を考えた時、これ以上の機能強化、中央博物館としての機能強化はちょっと難しいかなという印象もあります。そういった点で、他の場所の作り込みをしていくのが適切だろう、という事は我々も思っています。今後、中央博物館の中での収蔵庫ができますので、その収蔵庫にどんどん運び、現状あるものを見易くするという事を併せてやりながら、中央博物館の件は協議会からの強い意見として計画を作っていく形で取り上げさせていただきたいと思っています。あとは、会長がおっしゃった通り、やる気次第ですね。誰がやるのかということです。
臼杵会長	渡辺課長がやらないと。
渡辺課長	教育委員会は何の権限もないんです。
小見委員	教育委員会は何の権限もないですよ。学校に集中するから、博物館や図書館は全然可愛がってくれないです。
岡部所長	先程副会長が言われたように、平成22年の博物館構想の資料には「2～3年かけて新しい博物館を作る」と書いてありました。その後、職員が実現に向けて動かなかった部分があり、今この様な状況になっていて申し訳ないのですが、臼杵会長さんが言われた通り、やらないと本当にこのまま同じ状況が続くわけで。
臼杵会長	そのような構想があったのですね？
岡部所長	ありました。具体的に行動するということがありませんでした。
池田副会長	最後はトップの判断。言ってはいけないけど、トップの判断が何を優先するか。それがあると思います。

渡辺課長	ものによりますが、おそらく 20 億～30 億くらいは必要だと思います。やはり財政計画を組みながら、長期計画をやっていく必要がありますので、本腰を入れて、プロジェクトを組んでいくという事になると思います。構想は作ったけど、実行まで行かなかったのは、予算を付ける方が「これでいこう」となるか、ならないかというのが大きいので。 やはり市民から色々な意見をいただいて、歴史・文化薫る島だなんて言うておいて、そんなやり方はないでしょという事をどんどん言うていただいて、気運を盛り上げていく事も大事なかなと思います。
臼杵会長	今の市長さんもそうですが、今までの市長さんもそのような事にほとんど関心がないのではないのでしょうか。
池田副会長	関心が無いというよりも、その方々の何を優先すべきかという、優先順位の上の方に上がってなかったということだと思います。博物館を大事にしようということより、先に他の事を考えられたのではないのでしょうか。
臼杵会長	結果的に佐渡市に今何が残っているというのか。佐渡市になってから 10 年以上経っていますが、ほとんど何も残っていません。
池田副会長	佐渡市が世界文化遺産になった場合、本物を置いてじっくり佐渡金銀山の素晴らしさを見れる場所が必要です。きらりうむにその機能を持つと言っていたのに蓋を開けたら本物を置かないし、議員さんと話したら「そこに立派な博物館が出来るんだから、佐渡博物館なんか無くてもいい」なんて言われてびっくりして、市の方針が変わったことを聞いてないんですかと逆につついたことがあります。そんな状態なのが現状です。ここでアピールしていくしか現状はないのではないのでしょうか。 ここで強い意見が出されたという事を、提言を出してもらわないと。
臼杵会長	これからの佐渡は、依然と変わらず観光の島ですから、その島に入って来ても何にも見るものがないじゃないですか。見る所がない。発信する施設がない。
渡辺課長	結局計画が先か、作る意思が先かというところがあります。作る意思がトップにあるか、ないか。そのような事を踏まえまして、教育委員会としては作る意思を明確にしていくといく事で、やらせていただきたいと思います。後は皆さんもトップにお話し下さい。
萩野委員	皆ほとんど一緒ですが、まずはやれる事から。どのような運動をしたいのか、どうしたら平成 22 年に出したもの（博物館統合計画）に近づけるのか。博物館、図書館など、文化を集約した総合施設を作ると 20～30 億はかかるでしょうが、合特債の期限は延びましたので、優先順位を少し変えながらでも。 3 つの遺産が課をまたいでやっているような状況です。例えば文化統合施設へ行くと

	3 資産とも全部分かるとか、ある程度お金がとれるようなことも……博物館でお金をとることは良くないのかもしれませんが、観光の施設になり得るような、お金がきちっと取れるようなものを作らないと。 今は何も動かない状況ですから、それをどうやったら動かせるのかという事を皆で少しずつ提言をし、一般市民なり、議員の皆さんなりにアピールしていくようなことをしないと、埋もれてしまう事の繰り返しなので、浮かび上がるきっかけにはならないと思います。だから、文化や歴史を第一優先に持つて行くには、市民を巻き込んだ活動なりをつくっていかないと。良いお知恵があったらぜひ。
小見委員	娘夫婦が羽茂に住んでいます。もうすぐ2歳になる女の子がいて、よくラインで映像や写真が送られてきますが、佐渡は本当に子供を育てるのには良いところだと思います。私は新潟に住んでいますが、あんな写真が撮れる場所が新潟ではどこにあるのだろうかという写真ばかりなんです。それを皆さんは気づいていないような気がします。 第1回の議事録を読ませてもらいました。トキについて色々と議論がありました。私がびっくりしたのは「朱鷺擁護派の人たちばかりではないんだ」という事です。課長さんが色々なデータの話をしていましたが、新潟にいとトキは大事だと言っている島が佐渡だと思っている人が圧倒的に多いんです。前は、踏まれた稲がどうのこうのって議論されていたので、びっくりしました。それと、佐渡にはみんな自然を見に来てくるんじゃないかなって思います。去年の夏、車で一周しましたし、今年も5月に小木に来ます。そのように歩き回っていると、佐渡って「佐渡博なくても楽しいぞ」って感じはします。勝手なことを言って申し訳ありません。ただ、どこか一カ所、きちんと佐渡に残っている色んなものが見られる場所があったらいいなと思います。 佐渡は歴史にしても美術、例えば工芸、焼き物、金工、竹工芸など、こんな豊かな島はないですよ。島に住んでいる方が、その良さがわかってないのかなって。そんなこと絶対ないんだけど、もっと価値に気づかれたらいいと思います。もったいなすぎます。 私だけ島外の人間でいろんなこと申し上げましたが、年に7、8回佐渡に来ています。いろんなところを見せてもらっていますが、残念ながら佐渡博にはあんまり来てないんです。展覧会があったときなどは見せて頂いています。
池田副会長	両津郷土博物館の環境は良いけれど、あのような場所だと人はいけないから。
臼杵会長	長引きましたが、後でよく整理して発信して下さい。 では（2）30年度佐渡学センター事業進捗状況について説明下さい。
岡部所長	（資料について説明）
臼杵会長	ありがとうございました。何か質問・意見がありましたら、お願いします。
池田副会長	県外から寄贈、寄託とのことですが、いろんなものが佐渡にご寄付、ご寄託して頂いたことはすごく嬉しいことなんです。島内から資料の提供などはどうでしょうか？

	実を言うと、佐渡のある資料が佐渡に残らず、歴史博物館の方へ今年度移ったと聞きました。その理由をそれとなくつついたら、佐渡博は保管場所がないから心配でという話でした。これは先程の資料保管等にも関係しますが、やはり佐渡の貴重な資料は、佐渡から出さないということにも博物館とか佐渡学センターの大事な意味があると思いますが、島内からはどのくらい？
岡部所長	ほとんど島内です。今言われたのは、おそらく相川のひな祭りで岩佐さんの人形を飾ったんですけど、その三国志が京都博物館へ行きまして、残ったものを全部いただきました。そのことだと思いますが。
五十嵐主事	岩佐さんが、自身で持っている人形を貴重なものと把握していて、真っ先に連絡したのが京都の国立博物館でした。そこに連絡したら、三国志の人形はぜひとも頂きたいという話になったようですが、他のひな人形もどうですかと話をしたときに、うちではちょっととのことで、佐渡博物館に話が来たのが経緯です。
石川委員	その三国志は見れないんだ。
池田副会長	佐渡の宝ものは佐渡に残せるだけの環境が、収蔵庫なり、佐渡にちゃんと安心しておけるんですよという環境を作れば、島外に逃がさないで済むんじゃないかなと思います。北中の倉庫に行くんじゃないかと心配になりますよね。博物館自体の中が満杯ですよ。過渡期で大事な時だけど、皆さんが安心できるような環境を、遠くへ押し込むとかまたなんか言うんで、近くで、火災にあっても大丈夫なコンクリートの中で温度設備もいいようなところを、是非知恵を絞ってください。
伊藤委員	北中の保管状態というのは、ただ置いてあるだけですか？
池田副会長	基本的には置いているだけですよね。温度管理もないし。分類はしてありますが、一部は体育館に置いている状態です。 そうすると、佐渡博か。新穂の麦僊の置いてある部屋も何か安心できないですよ。エアコンがついていても。美術品の一部にカビが生えて、あわてて手入れしたような状態でした、あそこも。だから、100%安心はできる部屋が佐渡にはありません。
伊藤委員	おひな様か何かを京都に持って行ったのは賢明な選択ですね。残念だけど。
池田副会長	私は新潟の歴博の方に別の資料が行ったと聞いたので。
臼杵会長	10市町村が合併する前は、きちんと台帳を作り整備している市町村と、そのような事を全くやっていない市町村と様々で、収蔵品もばらばらに並べてある等、様々でした。 今はどの様な状況になっているのでしょうか？文化財的なものの台帳が整備されているのかどうか。

岡部所長	おっしゃる通りで、何年か前から少しずつチェックはしていますが、合併前のフォーマットで両津は両津、相川は相川、小木は小木みたいになっていて、統一したものを作らないといけないねと言っていますが、ちょっと追いついていないのが現状です。約 12 万点以上の資料がありますが、それをきちっとしているかと言われると、されてない現状です。
臼杵会長	大変な事だよね。本当にご苦労な事で、人は減らされ、そのような事は整備されない。
池田副会長	それと関連して、もう一つ。データベースの統一化も是非お願いしたいのですが、佐渡博物館等で企画展をやっていますよね？そのような時に展示した物が、割とインターネットに載っているんです。学者さんが検索すると出てくるものだから、それを佐渡に来てぜひ見たいと言っても、現実には行方不明的なものも結構あります。そういう意味でも台帳をきちんとする。所蔵台帳だけでなく、展示で、どういう貴重なものが何処にあるのかみたいなものを把握することも是非やってもらいたいです。 というのも、新発田収蔵を研究する方が、2 年前に佐渡に来られて、佐渡博物館で初期の段階で展示したものを見たいと言われました。私の中継役をやったので、方々でリストを探しましたが、結果的には行方不明で、その持出さえ不明というのがずいぶんあったりして、正直佐渡の恥だなと思いました。是非、併せて、フォーマットが違ってても分かる範囲で一緒に出来ると思います。資料名と保管場所だけでも統一できるので、是非。 それと貴重な寄託資料ありますよね。結構苦労して打ち込んだリストがあるので、あれもまとめると活用したいという人が結構出てくるとと思いますが、是非合わせてお願いしたいです。
岡部所長	今は年度末で、更新の時期の作品を担当が所有者と更新の手続きをしています。確かにおっしゃる通りです。展示のチェックはしてるよね？どれを返したとか。
五十嵐主事	寄託品を返したか返していないかはチェックしていますし、今年度の情報しかないのですが、特別展で出した資料のリストは、今年度は作っています。ファイルに綴ってありますので、展示に何が出たかがわかるようにはなっています。
臼杵会長	なかなか大変な作業ですが、取り組んでいただきたいと思います。
池田副会長	もう 1 点いいですか？新潟大学人文学部との連携協定なんですけど、これは非常に伝統がありますが、池田哲夫先生が退官してから、センターと大学とのつながりがちょっと弱まってきているのではないかなと言う人もいます。是非大事にしていてもらいたいなと思います。課長さんが退職で、館長、係長共に退官異動という事で大幅に変わるものですから、新年度になったら大学へ是非、新しい方々挨拶に行って、大学との連携を強くして頂きたいなと思います。 以前は、教育長時代とか、教育長や課長が変わると、あの時のセンター長は剛忠先生

	で、私が教育長さんなどを大学の関連を全部案内して回っていました。是非連携強化のために、3人も変わるわけだし、その辺を密に進めていただきたいと思います。ただ惰性的にやらなくてはいけないというような雰囲気では運営しているのではないかとおっしゃる方もいたので、私も元OBで仲間なものですから、そのような事が耳に入ってくるものですから、是非そのへん新たな気持ちで連携強化をお願いしたいと思います。
岡部所長	今年度も教育長と私と係長で行ってきました。替わった時だけではなく、その前も行っていますし、今年も年度初めに挨拶とか、今年度どうしますかという相談などに行かないといけないと思っています。
池田副会長	やっているかどうかもう分からないので言ったんですが、是非続けて下さい。
臼杵会長	大事な事ですね。それでは次に移りたいと思います。 (3) 平成31年度 佐渡学センター事業計画(案)について説明願います。
岡部所長	(資料について説明)
臼杵会長	何か質問などありますか？
伊藤委員	5ページの所のレファレンス業務とはどういう事でしょうか？
岡部所長	例えば、普段佐渡博物館では解説はしていませんが、ちょっと解説して下さいとかそのような事もあります。
五十嵐主事	それに加えて、一般の方々から、窓口や電話で問い合わせを受けることがあります。それに対して調べてお伝えするのが主にレファレンス照会業務になります。
伊藤委員	我々が使うのとちょっと意味が違う使い方をしているものですから。
小見委員	一般的には図書館ですよね、レファレンスというのは。しかし、博物館も外から問い合わせがきて、それにお答えするのもレファレンスかなと思います。 議事録を送ってもらったのを読ませていただき、「電話の応対が非常にまずい」という意見があったと有りましたが、博物館が全部わかるわけではありませんから、分かる方を紹介して、そちらにお伺い下さいというのは構わないと思います。しかし、事前にその方の了解を得てからでないといけないだろうし、そのような発言が前回ありました。全くおっしゃる通りで、レファレンス業務は結構難しいですよ。今だったら非常に丁寧に答えられるかなと思いますが、忙しい時に電話がかかってくるとついついけんどんな対応をしてしまう事もありますから、それを注意しましょうという事だったんだと思うんですけど。レファレンスとはそのようなものだとして理解しています。

伊藤委員	佐渡であまり私たちが目にしないようなところでひょいと資料を見ると面白い事が出ていたりしますが、そのような資料の収集のような事はやっているのでしょうか。例えば、お寺の名前がどうしてそんな名前が付いているのかとか、山のてっぺんとか海とは関係のない所に船に乗っているお地蔵さまがいるんだとか。お地蔵様に関する資料が佐渡には結構あるので、そのようなものは全部集めているのかなとか。海の生き物関係で、我々には分かりやすいんですが、そういったものがぼんぼんと発表されているので、そのようなものを目につく限り集めて調査をしているのかなとか。 博物館でそれぞれ、このような質問が来て、分からない場合はこの人に問い合わせるというようなリストはあるのかどうか。前回の会議でも、かつて佐渡博物館ができた頃は、有識者というか、理科系の人たちが何人か集まって理科部会などがあったり、文化関係の部会があったり、出土品関係のグループがあったりして、博物館で分からない場合はそのグループのトップに聞いたりする情報網が整備されていたという話でしたが、それはそのままスルーですよ？
岡部所長	それが議事録に載っていないと。
伊藤委員	いやいや、そのような話が前回あったから。
五十嵐主事	リストは作られていません。各問い合わせを受けた学芸員や職員が知っている範囲で、知っていそうな方に連絡してお伺いするという対応をしています。
池田副会長	是非その辺も上手く対応していただいて、佐渡の知的な面の顔になるわけだから、博物館は。電話1つでイメージが伝わるので、前回そのことできついことを言いましたが、適切なレファレンス対応をお願いします。今から組織を作っておいた方がいいんじゃないんですか？やはり、突然電話が来て困るという方もいるわけですから。
岡部所長	最近ではメールでの問い合わせフォーマットがあり、(管轄をしている)情報政策の部署が、これは佐渡学センター、これは文化財室、これは観光みたいに振り分けて各部署に送るのですが、そのような問い合わせも増えています。
池田副会長	メールは過去にもありました。ある程度短期間で返信しないと、返信がこないと言って市長の所にクレーム言うような。メールだとすごい気が短くなるんですね。そのようなメールが過去に市長まで行ったこともありました。
池田副会長	4 閉会